

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	313質の高い既成市街地の整備		
施策のねらい (めざす姿)	賑わいと魅力あふれる中心市街地が形成されています。 自然と調和した質の高い居住環境が整備されています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	マネージャー氏名	萩原 勝

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	<p>新京成線連続立体交差事業を見据え、北初富駅周辺の整備については、関係機関との協議を実施し、駅前広場の形状や必要な機能について方針決定をする必要がある。また、初富駅周辺の整備については、計画的に推進していく。</p>	③改革・改善内容	<p>新京成線連続立体交差事業による高架運行が開始となり、北初富駅周辺の整備については関係機関との協議を実施し、駅前広場の形状など整備方針を決定する必要がある。また、初富駅周辺の整備については、これまでと同様に計画的に事業を推進していく。</p>
②①に基づく取り組み結果	<p>北初富駅前広場の整備に向けた検討設計等の結果を基に、関係機関との協議を行った。初富駅周辺の整備については、地権者の協力を得て、国の交付金を活用し、事業用地を取得した。</p>		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	北初富駅周辺、北初富駅周辺地区、周辺市街地	意図(対象をどうするのか)	都市基盤の整備により、安全性・利便性・快適性が確保され、中心市街地については賑わいや、住宅地については質の高い居住環境を創造する。
②施策の概要	北初富駅や北初富駅周辺地区では、都市基盤の整備により、安全で利便性の高い駅周辺機能を確保する。周辺市街地については、開発行為などにより、質の高い居住環境へ誘導していく。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業による高架運行が開始となり、駅へのアクセスを向上させるため北初富駅周辺及び初富駅周辺の整備を計画的に進める必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度～2年度の施策の成果	北初富駅については、駅前広場検討設計委託等を実施し、その結果を基に関係機関との協議を行った。初富駅については、国の交付金を活用し、事業用地を取得した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(2年度)
	i	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	56.3	-	-	55.0
	ii	既成市街地整備事業着手地区数	地区	2	2	2	2
	iii						
③基本事業成果指標	i	都市軸形成促進事業整備箇所数(着手)	箇所	1	1	1	1
	ii	近隣商業拠点整備事業整備箇所数	箇所	1	1	1	1
	iii	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	56.3	-	-	55.0
	iv						
	v						
	vi						
④施策の事業費	令和元年度決算	令和2年度決算	市民一人あたり事業費(2年度決算)	令和3年度予算			
事業費(千円)	60,195	40,193	(単位:円)	367円	85,566		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	北初富駅及び北初富駅周辺地区については新京成線連続立体交差事業による高架運行が開始となったことから、早期の駅前広場等の整備のため、地域住民の協力を得るとともに関係機関と協議を行っていく。		
②総合評価	1達成	③総合評価の理由	北初富駅周辺地区整備は、用地を取得し事業を推進している。北初富駅周辺地区は、用地取得により事業着手しており、引き続き関係機関との協議を進め、事業を推進する。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑ 拡充
②上記方向性の説明	新京成線連続立体交差事業による高架運行が開始となり、駅周辺の機能確保をすべく、整備を推進していく必要があるため。
③特に重点化する事務事業	都市軸形成促進事業